

テンペラ画

担当教員 熊谷宗一
受講アトリエ【702】2025/11/07(金)-11/22(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

木材板の基材に地塗りをしてパネルを作る。
 卵テンペラ絵具を用いて伝統的な古典技法を学ぶ。
 模写：学校側がセレクトしたサンプル（テンペラ画）の中から題材を選ぶ。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月7日	金		—	日本美術史B	○	オリエンテーション	
2	11月8日	土	○	下地作り、下絵（転写）			—	
	11月9日	日						
3	11月10日	月	○	下絵（転写）金箔分け、ボーダー塗り			制作	
4	11月11日	火	○	制作			制作	
5	11月12日	水		—	視覚文明史	○	卵テンペラによる描写	
6	11月13日	木		英語(選択授業)			海外講座	
7	11月14日	金		—	日本美術史B	○	制作	
8	11月15日	土		制作			—	
	11月16日	日						
9	11月17日	月		制作			制作	
10	11月18日	火	○	制作			制作	
11	11月19日	水		—	視覚文明史	○	制作	
12	11月20日	木		英語(選択授業)		○	制作	
13	11月21日	金		—	日本美術史B	○	制作	
14	11月22日	土	○	講評			—	

学習目標

中世美術からルネサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写的な関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。

予習・準備物

面相筆、細筆、絵皿、鉛筆

注意事項

評価方法

提出課題による採点と制作過程も評価に加味する（作品評価70点 制作過程30点 合計100点満点）

1年 ファインアート科

リトグラフ

担当教員 中村真理

受講アトリエ 【版画工房/702】

2025/11/25(火)-12/6(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版作りを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

単色リトグラフ1版の作品の制作

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月25日	火	○	課題説明、リトグラフについて		○	版の準備、描画材について	
2	11月26日	水		—	視覚文明史		描画	
3	11月27日	木		英会話		○	第一製版のデモ・描画	
4	11月28日	金		—	日本美術史B		描画	
5	11月29日	土	○	描画			—	
	11月30日	日						
6	12月1日	月		描画			描画・製版	
7	12月2日	火	○	描画・製版・刷り		○	描画・製版・刷り	
8	12月3日	水		—	視覚文明史		描画・製版・刷り	
9	12月4日	木		英会話		○	製版・刷り	
10	12月5日	金		—	日本美術史B	○	製版・刷り	
11	12月6日	土	○	講評			—	

学習目標

講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの工程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

予習・準備物

400x280mm程度（縦横自由）のエスキースやドローイング、筆記用具、作業着やエプロン、使い捨て手袋(製版と印刷時)

注意事項

作業工程の多い課題です、デモや説明のある日は必ず遅刻や欠席などないように出席すること。

評価方法

提出課題による採点

1年ファインアート科

グッズ制作

担当教員 花島百合

受講アトリエ [702]

2025/12/08(月)-2025/01/10(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

世の中にあるグッズを観察し、自分の表現を活かしたグッズの形を考案します。

絵の完成度を高めながら、商品としての見せ方や届け方を意識して作品を制作する授業です。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	12月8日	月	○	オリエンテーション			制作	
2	12月9日	火		制作			制作	
3	12月10日	水		－／視覚文明史	○		制作	
4	12月11日	木		英語			制作	
5	12月12日	金		－／日本美術史B	○		制作	
6	12月13日	土		制作			－	
冬季休暇								
7	1月7日	水		－／視覚文明史	○		制作	
8	1月8日	木		英語			制作	
9	1月9日	金		－／日本美術史B	○		制作	
10	1月10日	土	○	講評			－	

学習目標

身近なグッズを観察して、自分の作品の世界観や魅力をグッズという形で発信する方法を学びます。

予習・準備物

これまでに作った課題、作品ファイルなどがあれば持参してください。

持ち物：筆記用具、クロッキー帳、スケッチブックなど、自分の好きな画材（透明水彩、アクリル絵の具など）。参考資料にしたい雑貨やグッズなどもあれば持参してください。

注意事項

制作に必要な画材、雑貨制作の材料などは自分で用意してください。自分の表現を発揮できる支持体や描画材を選び自分の世界観を遺憾なく発揮し制作をしてください。

評価方法

課題作品65% 制作態度・積極性35%

木版画基礎

担当教員 鈴木吐志哉

2025/10/17(金)-10/27(月)

受講アトリエ 【702】

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

モノクロームの大型版木に取り組み制作することで、木版画油性摺り技法の基本習得とその魅力を体験します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	10月17日	金		—	日本美術史B	○	木版画について / 版木にドローイング	スライドにて作家紹介 他
2	10月18日	土	○	彫版開始			—	摺りのデモンストレーション
	10月19日	日						
3	10月20日	月	清水	彫版		○	彫版 / 摺りについて	摺りのデモンストレーション
4	10月21日	火	清水	彫版		○	彫版～試し摺り / 技法紹介1	
5	10月22日	水		—	視覚文明史	清水	彫版	
6	10月23日	木		英語(選択授業)		○	彫版～試し摺り / 技法紹介2	
7	10月24日	金		—	日本美術史B	○	彫版～試し摺り	
8	10月25日	土	○	試し摺り～本摺り			—	本摺りについて
	10月26日	日						
9	10月27日	月	清水	試し摺り～本摺り		○	本摺り	
10	10月28日	火		立体造形基礎			立体造形基礎	
11	10月29日	水		—	視覚文明史		立体造形基礎	
12	10月30日	木		英語(選択授業)		○	講評	

学習目標

○油性木版画1版単色。木版画油性摺り技法の基本技術の修得と可能性の研究。
00×450mm

○版木サイズ 6

予習・準備物

エプロン等の作業着

注意事項

彫刻刀を使用するので、取り扱いには十分に注意すること。

評価方法

提出課題による採点

実践イラストレーション

担当教員 須田浩介・関根秀星

受講アトリエ [702]

2025/11/3(月)-2025/11/6(木)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

既存のカルチャー雑誌の表紙を想定し、人物のポートレートを描きます。

各自"好きな映画"から登場人物を選択し、A3サイズのアナログ作品を制作。

描く登場人物は必ず俳優本人の顔の造形が分かるものとする。

表紙のフォーマットを元にラフを制作、バランスや伝え方を整理した上で本制作に入ります。

ポートレートを描いた原画と、表紙にはめ込んだデータ(プリントアウト)を提出してもらいます。

最終日にはプレゼンテーションを行い、講評を通して複数の多様性にも触れます。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	11月3日	月	<input checked="" type="radio"/>	オリエンテーション・テーマ作品セレクト・モチーフチェック		<input checked="" type="radio"/>	ラフ制作・ラフチェック※できた人から提出	am・pm 関根
2	11月4日	火	<input checked="" type="radio"/>	ラフ完成提出〆切・本制作※水張りレクチャー		<input checked="" type="radio"/>	本制作・イラレでのフォーマットへの配置レクチャー	am・pm 須田
3	11月5日	水		ー / 視覚文明史			制作	
4	11月6日	木		英語		<input checked="" type="radio"/>	講評	関根・須田

学習目標

イラストレーションとしてメディア媒体での表現における伝え方や過程を学ぶ。

自己表現を追求する中で、イラストレーションの分野で多く求められる、ポートレートを描く力を付ける。

予習・準備物

各自制作画材

注意事項

映画の登場人物は俳優の顔が分かるものを選ぶ。例：スパイダーマンやアイアンマンの様にマスクをしている姿はNG。ジョーカーはマイクなので可。初回オリエンテーション後に各自何の映画の誰を描くかモチーフとなる人物の写真や画像をチェックします。その時点でOKが出たらラフの制作に入ってください。いきなりラフを書き出したり本制作に入るのはNG。

A3サイズに雑誌のロゴがプリントされたコピー用紙を用意するのでそれにラフを描いてください。

制作は原則A3サイズ木製パネルに水張りしたものに描画すること。

キャンバスに制作したい場合は応相談。

授業時間内で制作、完成をさせること。

評価方法

課題提出と授業態度で評価。

1年ファインアート科

立体造形基礎

担当教員 樋口恭一・直井朱里

受講アトリエ [702]

2025/10/28(火)-2025/11/1(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

本授業では、石粉粘土を用いて、与えられたモチーフ（縦に二分割されたパブリカ）を観察・分析し、写実的な立体作品を制作する。立体造形における基礎的な造形力、観察力、表現力の習得を目的とし、素材の扱いから着彩までの一連の工程を実践的に学ぶ。授業冒頭では、課題の意義と立体表現における視点の重要性についてオリエンテーションを行い、その後、粘土の基礎的な取り扱い方法および簡易工具の作成を実施。制作過程では、モチーフの構造と表面の質感を的確に捉え、最終的に水性絵具による着彩を通して、より実在感のある作品に仕上げることを目指す。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
	10月28日	火	○	— / オリエンテーション	○		制作	
1	10月29日	水		— / 視覚文明史	○		制作	
2	10月30日	木		英語			木版画 講評	
3	10月31日	金		— / 日本美術史B	○		制作	
4	11月1日	土	○	講評			—	

学習目標

視覚には無意識に見落とされる死角が存在し、その代表例として「物体を一方向からしか見ていないこと」および「物体の表層のみを捉えていること」が挙げられる。これらの視覚的偏りに対する認識は、特に平面表現を主とする者にとって重要である。本授業では、立体物の再構築・再現を制作行為として行うことで、視覚の限界を自覚し、多面的かつ構造的な視座を獲得することを目的とする。これにより、表現者としての視覚の再構築を促す契機を提供する。

予習・準備物

- エプロンまたは作業用の汚れても良い服装
- スケッチブックまたはクロッキー帳（アイデアスケッチ・観察メモ用）
- 鉛筆・シャープペン・消しゴム・カッターナイフ
- 粘土ペラになりそうなもの（100円ショップの粘土ペラセット、カトラリーや割り箸など、なんでも可）
- 毛抜き又はピンセット等（細かいものを掴むためのもの）
- ジップロック
- ビニール袋
- スプレー・ボトル（水分保持用）
- 水彩絵具セット
- 光沢を出したい場合はマニキュアのトップコートなど
- ほか、リアルに見せるために必要だと思う材料
- 手袋（肌が敏感な場合、粘土との接触を避けたい人）
- マスク（削った時の粉が気になる人）

注意事項

- 粘土や絵具などの使用量には制限がある。授業内で配布・貸出がある場合は必ず指示に従うこと。
- 共用道具は一部用意されているが、作業の効率化を図るため自分の道具を持参することが望ましい。
- ナイフや刃物の取り扱いには十分注意し、安全第一で作業を行うこと。

評価方法

本授業では、立体造形における基礎的な観察力・造形力・表現力の育成を目的とし、制作プロセスおよび完成作品の両面から総合的に評価を行う。特に、モチーフに対する理解の深さ、粘土操作の技術的な習熟度、造形的な精度、表現意図の明確さ、着彩における観察と再現の的確さを重視する。また、授業への取り組み姿勢や課題に対する自主性・継続性も評価の重要な要素とする。

【観察力・形態把握力】 (20%)

モチーフの構造や特徴を的確に捉え、形状として表現できているか。

【造形技術・粘土操作】 (20%)

石粉粘土の特性を理解し、適切な道具の使用や加工が行えているか。

【構成力・空間把握】 (15%)

立体全体のバランスやプロポーション、奥行きへの意識が適切か。

【着彩表現】 (15%)

モチーフの質感・色彩を観察し、写実的に再現する工夫がなされているか。

【制作プロセス・取り組み姿勢】 (20%)

授業への参加態度、作業への集中度、粘り強く制作に取り組む姿勢が見られるか。

【課題に対する理解・創造的解釈】 (10%)

課題の意図を理解し、個人の視点や工夫が制作に反映されているか。

フレスコ画

担当教員 杉崎匡史
受講アトリエ 【702、701】

2025/10/01(水)-10/16(木)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

古典技法としてのフレスコ画技法を、模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋げられるのか考えてみる。

授業スケジュール/計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
	9月30日	火		フレスコ準備		フレスコ準備	学生は午後から準備に参加
1	10月1日	水	—	視覚文明史	○	a モルタル作り・地塗り b 原画選択・拡大コピー・穴あけ	モルタル説明 カルトーネ説明
2	10月2日	木		英語(選択授業)	○	a 原画選択・拡大コピー b モルタル作り・地塗り・穴あけ	
3	10月3日	金	—	日本美術史B		拡大コピーと線香穴あけ完了	
4	10月4日	土	○	モルタル作り・中塗り・シノピア		—	シノピア説明
	10月5日	日					
5	10月6日	月	○	モルタル作り・上塗り①・顔料練り	○	描画①	ジョルナータ・描画説明
6	10月7日	火	○	モルタル再練り・上塗り②		描画②	塗りつぎ説明
7	10月8日	水	—	視覚文明史	○	モルタル作り・上塗り③・養生	養生説明
8	10月9日	木		英語(選択授業)		描画③・上塗り④・養生	
9	10月10日	金	—	日本美術史B		モルタル再練り・描画④・上塗り⑤・養生	
10	10月11日	土	○	描画⑤		—	
	10月12日	日					
	10月13日	月				スポーツの日	
11	10月14日	火		モルタル作り・上塗り⑥		描画⑥・完成	
12	10月15日	水	—	視覚文明史		片付け	
13	10月16日	木		英語(選択授業)	○	講評	

学習目標

油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。

予習・準備物

ブチパレット、ペーパーパレット、やわらかい丸筆平筆・彩色筆・刷毛(小)・面相筆など、(豚毛不可)、筆洗用具(大)、汚れても良い服装、箱ティッシュ、ペインティングナイフ、サランラップ、マスキングテープ、ハンドクリーム等

注意事項

制作工程を踏まないとフレスコになりません

評価方法

提出課題による採点、制作への工夫、共同作業への積極的な参加

カットイラスト

担当教員 石山さやか

受講アトリエ [702]

2025/09/22(月)-2025/9/29(月)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

誌面に載ることを想定し、文章に合ったイラストを作成します。

読者がイメージを広げられるようなイラスト、文章に合ったイラストとはどのようなものか考え、自分の作風を伸ばすことを目指します。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考		
1	9月22日	月	<input type="radio"/>	オリエンテーション・授業の説明	<input type="radio"/>		自己紹介			
	9月23日	火		秋分の日						
2	9月24日	水		— / 文章技法論	<input type="radio"/>		制作（作品を読む）			
3	9月25日	木		英語・日本語B	<input type="radio"/>		制作			
4	9月26日	金		— / 日本美術史	<input type="radio"/>		制作			
5	9月27日	土		—			—			
	9月28日	日								
6	9月29日	月		制作	<input type="radio"/>		講評			

学習目標

実際の小説を用意し、内容に合わせて挿絵を制作します。描いた絵は誌面にレイアウトします。

何を描き、何を描かないのか、どのような画材を使うか、自分で考えることを大事にしながら制作します。

予習・準備物

初回は対面で自己紹介をしてもらいます。これまでに作った課題、作品をまとめておいてください（ファイル、タブレット閲覧など）

持ち物：記録用の筆記用具、第3回以降は自分の好きな画材（透明水彩、アクリル絵の具など）

注意事項

- 講義の内容は基本的に口頭です。各々メモを取るようにしましょう。

評価方法

課題作品：30% 制作態度・積極性：50% 出席数・遅刻の有無：20%

1年生 ファインアート科

シルクスクリーン1

担当教員 東樋口徹

受講アトリエ 【702】

2025/09/01(月)- 09/09(火)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

基本的な水性インクで紙に刷る4版以上を使った作品 (A4 / 21cm x 29.7cm) を一点 (紙8枚程度) 制作します。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	9月1日	月	<input type="radio"/>	オリエンテーション、技法説明		<input type="radio"/>	技法説明(製版)	
2	9月2日	火	<input type="radio"/>	制作		<input type="radio"/>	技法説明(刷り)	
3	9月3日	水		—	文章技法論		制作	
4	9月4日	木		英語(選択授業)	・日本語B	<input type="radio"/>	制作	
5	9月5日	金		—	日本美術史A	<input type="radio"/>	制作	
6	9月6日	土		制作			—	
	9月7日	日						
7	9月8日	月	<input type="radio"/>	制作		<input type="radio"/>	制作	
8	9月9日	火		日本語B(補講)		<input type="radio"/>	講評	

学習目標

シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わされて改良されたものです。枠に張った紗の目を不必要な部分は塞ぎ、画の孔(穴)の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。また、シルクスクリーンは布などの紙以外の素材にも簡単に刷る(印刷)ことが出来る技法です。Tシャツなどの様々な素材への刷り方も合わせて学びます。

予習・準備物

下絵、紙コップ、プラスチックスプーン、ウエス(ボロ布)、新聞紙、用紙(いすみ中判4枚またはA3厚紙ケント紙8枚分)、制作マニュアル、マスキングテープ、試し刷り用紙(なんでも可)

注意事項

初日までに下絵(アイデアスケッチ)を用意すること。授業では汚れても良い格好(エプロン等)をしてください。

評価方法

習熟度と提出課題による採点

1年生 ファインアート科

ドローイングブック

担当教員 室井公美子

2025/8/30 訂正

受講アトリエ 【702】

2025/09/16(火)- 09/20(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

モダンテクニックである、デカルコマニー、ドリッピング、マーブリング、吹き流し、ハッチング、スパッタリング、スクラッチ、バチック、フロッタージュ、ステンシル、スタンピング、コラージュの12技法を学びます。出来上がった作品を組み合わせ、加筆など行いながら、オリジナルのドローイングブックを作成します。また簡易的な製本方法も学び、よりオリジナリティーあるものに仕上げます。これらの技法は、アートワークショップなどでも活用できます。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
	9月15日	月		敬老の日				
1	9月16日	火	○	前提講義・制作	○		制作	
2	9月17日	水		—	文章技法論	○	簡易製本・制作	様々な製本方法を試してみます。
3	9月18日	木		英語（選択授業）・日本語B			制作	
4	9月19日	金		—	日本美術史A	○	制作	
5	9月20日	土	○	講評会			—	
	9月21日	日						

学習目標

絵画のモダンテクニックを学び、表現の幅を広げて行きます。また、モダンテクニックには偶然性が伴うもので、その偶然性を活かしつつ、意図した表現に近づけるための試行錯誤を通じて、柔軟な表現力を養います。

予習・準備物

アクリル絵具・水彩・クレヨン・色鉛筆・ペンなど、モダンテクニックを行った作品への加筆に必要なもの。のり、ハサミ、カッター、パレット、筆など。

※普段使用している画材でよい。

【学校で準備するもの】

- ・画用紙、紙、厚紙
- ・アクリル絵具、水彩、クレヨン、色鉛筆、筆、ハケ、水入れなど

※画材に関しては、最低限必要なものを用意します。

※必要に応じて、各自画材を購入してください。

注意事項

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。

授業中は、制作に集中すること。

他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること。

評価方法

提出課題、取り組み姿勢

創形祭出品作品制作

担当教員 室井公美子 工藤礼二郎
受講アトリエ 【702】

2025/07/07(月)- 07/12(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

これまでの学びを活かしながら、創形祭へ向けての絵画作品制作(イラストも可)を行います。コンセプトの立案から作品の完成まで、計画的な制作プロセスを実践してみましょう。

授業スケジュール／計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	7月7日	月	○	ガイダンス		制作(エスキースなど)	室井
2	7月8日	火		制作(エスキースなど)	○	制作	室井
3	7月9日	水		— / 文章技法論		制作	
4	7月10日	木		英語(選択授業)・日本語B		制作	
5	7月11日	金		— / 日本美術史A	○	制作	工藤
6	7月12日	土	○	終業日の挨拶・アトリエ清掃		—	工藤・鈴木・室井

学習目標

- 自身の表現したいテーマを掘り下げ、作品の核となるコンセプトを思考する。
- コンセプトを視覚化し、具体的なエスキースを作ることができる。
- 完成までの道筋を想定し、無理のない制作計画を立てることができる。

予習・準備物

キャンバス、イラストボード、紙などの絵画作品制作に必要な画材を各自用意すること。

注意事項

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。

授業中は、制作に集中すること。

他者への配慮を心がけ、お互いが気持ちよく制作できるアトリエ空間にすること。

評価方法

取り組み姿勢

その他

夏季休暇明けの課題「シルクスクリーン」版技法(9/1~9/8)の期間中、創形祭出品作品、グッズ制作なども制作できる機会を設ける予定です。

1年 ファインアート科

アクリル画

担当教員 勝倉大和

受講アトリエ [702]

2025/06/23(月)- 2025/06/28(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

- ①木パネルにジェッソを塗布する。
- ②好きなカタカナを一つ選びゴシック体でレタリングする。
- ③レタリングした文字を補助線を使い斜めにレタリングし直す。
- ④立方体に合わせ奥行きの線を描く。
- ⑤出来た立体文字にワンポイント、好きな物を配置する。
- ⑥支持体に転写する。
- ⑦アクリル絵の具を使用し、明るい面、中間の面、暗い面、で影を色の濃さで表現する。

授業スケジュール／計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月23日	月	<input type="radio"/>	オリエンテーション	<input type="radio"/>	制作	
2	6月24日	火	<input type="radio"/>	制作	<input type="radio"/>	制作	
3	6月25日	水	—	文章技法論		制作	
4	6月26日	木		英語・日本語B	<input type="radio"/>	制作+講義	指導：工藤（アクリル材料について）
5	6月27日	金	—	日本美術史A	<input type="radio"/>	制作+講義	指導：工藤（アクリル材料について）
6	6月28日	土	<input type="radio"/>	制作	<input type="radio"/>	講評	

学習目標

アクリル絵の具を使用し、立体的に見える表現法を習得出来る。空間を楽しみながら描ける。

予習・準備物

シャーペンか鉛筆、定規、消しゴム、ボールペン、綿手袋（分からなければ24日に持つて来ていただければ大丈夫です、23日に見本をお持ちします）、アクリル絵の具、綿棒、筆、水、パレット

注意事項

課題の説明は9:20より行います 気楽に制作するためにも時間に集まってください。

評価方法

課題提出（期間内に作品が完成出来たか）、創意工夫（作品に生徒さんの考えが反映されているか）、授業態度（授業を受ける時に寝ていたりおしゃべりに夢中になりすぎていないか）を評価方法としたいと思いますが真面目になりすぎず楽しんで頂ければと思います。

1年ファインアート科

テーマ制作

担当教員 今野 樹里恵

受講アトリエ【702】

2025/06/30(月)-2025/7/5(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

ある程度の制約や決められた要素を元に、柔らかな発想で物や事、ストーリーを表現する授業です。自分の想定の枠を超えた新しい表現に出会うこと。個性が重視されるイラストの世界で、自分だけの強みや表現を見つけるための授業です。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月30日	月	○	オリエンテーション、水張り講習		○	課題①制作	
2	7月1日	火		課題①制作		○	課題①制作	
3	7月2日	水		—	文章技法論	○	課題①講評、課題②制作	
4	7月3日	木		英語(選択授業)・日本語B		○	課題②制作	
5	7月4日	金		—	日本美術史A		課題②制作	
6	7月5日	土	○	講評			—	

学習目標

SNSやAIの普及によりあらゆる人があらゆる手段で自分の表現を世界中に発信することができるこの時代に、埋もれることなく自分の確固とした表現を持つことの意味や、それらを見つけるための手段を学びます。

予習・準備物

課題①水彩制作

学生準備物：自分で撮影した資料写真数枚を出力したもの、ハサミ、カッター

学校準備物：A4用紙 四切サイズ、B3パネル、ハサミ、カッター、

水張りセット（バケツ、水張り刷毛、水張りテープ）、水彩セット（ミニパレット、水彩絵具、水彩筆）

課題②ペン画制作

学生準備物：自分が創作意欲を掻き立てられる、ストーリー性のある小説、絵本、詩などの読み物

学校準備物：M4用紙 B3サイズ、カルトン、ピグマ05 各人数分+予備15本程度

注意事項

授業時間内に制作完成させること。

評価方法

課題提出と授業態度で評価する。

銅版画1

担当教員 長島充

受講アトリエ 【版画工房/702】

2025/06/09(月)-06/21(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画1点(18×24cm)を制作します。ドローイングにも感覚の近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。

授業スケジュール/計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月9日	月	○	オリエンテーション	○	版の準備・テーパーがけ～下絵トレース ～ニードルによる描画スタート	午前、午後 教室～工房の往復
2	6月10日	火	○	各自の制作状況で指導	○	プレス機による印刷実演	午前教室、午後から工房
3	6月11日	水	—	文章技法論		制作	
4	6月12日	木		英語(選択授業)・日本語B		制作	
5	6月13日	金	—	日本美術史A		制作	
6	6月14日	土		制作	○	ニードル描写～腐食の進め方	教室
	6月15日	日					
7	6月16日	月	○	腐食～ニードル描写指導	○	試し刷り～再グランドびき、 再ニードル描画	午前、午後 教室～工房の往復
8	6月17日	火		制作		制作	
9	6月18日	水	—	文章技法論		制作	
10	6月19日	木		英語(選択授業)・日本語B	○	本刷りに向けての彫版のツメ ～本刷り指導	工房
11	6月20日	金	—	日本美術史A		制作	
12	6月21日	土	○	講評会～採点		—	教室

学習目標

銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。

予習・準備物

6/9初日にテーマ「自然物」をモチーフとした版と同サイズ(18×24cm)の下絵(エスキース)を各自制作し、必ず持ってくること。

注意事項

工房使用にあたって、薬品類、プレス機、工具類など危険を伴う物もあるため、使用するときは講師や助手の指示に従うこと。

評価方法

課題作品70%(描写力と表現力)、制作姿勢など30%

1年 ファインアート科

版画基礎

担当教員 鈴木吐志哉

受講アトリエ 【702】

2025/04/21(月)- 5/10(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

版画の技法から生まれる表現を体験しながら探る授業です。まずフロッタージュから始まりモノタイプやシルクスクリーンなど、直接描くことでは得られない間接表現の魅力を学びます。さらに本校収蔵の葛飾北斎「神奈川沖浪裏」復刻版の版木をキーワードに、自由な表現による木版画へと展開させてゆきます。

授業スケジュール／計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	4月21日	月	○	版画について～フロッタージュ	○	モノタイプ1	
2	4月22日	火	○	シルクスクリーン	○	シルクスクリーン	
3	4月23日	水	—	文章技法論	○	モノタイプ2	
4	4月24日	木		英語（選択授業）・日本語B		モノタイプ2（カラー）	
5	4月25日	金	—	日本美術史A	○	シリコンリトグラフ	
6	4月26日	土	○	シリコンリトグラフ		—	
	4月27日	日					
	4月28日	月		新入生の日			
	4月29日	火					
	4月30日	水					
	5月1日	木					
	5月2日	金					
	5月3日	土					
	5月4日	日					
	5月5日	月					
	5月6日	火					
7	5月7日	水	—	文章技法論	○	正方形の木版画	
8	5月8日	木		英語（選択授業）・日本語B		正方形の木版画	
9	5月9日	金	—	日本美術史A	○	正方形の木版画～コラージュ	
10	5月10日	土	○	講評		—	

学習目標

この授業では様々な版画の技法を体験します。版画で遊びながら「技法の力」を実感し、自分のイメージを成長させることをこの授業の最大目的とします。そして版画というフィルターを通して、自分の作品の別の顔に出会うことを目指します。

予習・準備物

- 鉛筆、ノート等の筆記用具
- エプロン等の汚れても大丈夫な服装

注意事項

- 彫刻刀など刃物やプレス機などの機材も使いますので、十分に注意して制作する事

評価方法

- 授業での積極性50%
- 提出課題50%

人物デッサン(コスチューム)

担当教員 室井公美子・工藤礼二郎

受講アトリエ [601、702]

2025/05/26(月)-05/31(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

人体デッサンでは、人体の構造やプロポーションをしっかりと理解し、正確さと表現力を兼ね備えた描写力を身につけます。骨格や筋肉についての解剖学的知識を学びながら、実際のモデルを描くことで実践的な技法を習得していきます。観察力を磨き、自分ならではのデッサン表現を追求することを目指します。これらの技術は、イラストレーションなど多様な表現活動の基礎にもつながります。

授業スケジュール／計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	5月26日	月	○	オリエンテーション	前提講義・授業準備	○	制作	コスチューム
2	5月27日	火	○	制作		○	制作	
3	5月28日	水		—	文章技法論	○	制作	
4	5月29日	木		英語(選択授業)・日本語B		○	制作	
5	5月30日	金		—	日本美術史A	○	制作	
6	5月31日	土	○	講評会			—	

学習目標

人物デッサンは、観察力、描写力、表現力、人体構造の理解、集中力、自己表現力を総合的に高める課題であり、技術向上に加え、人間的な成長も促します。

予習・準備物

人体の構造について調べておく。

鉛筆、消しゴム、練りゴムなど。

*デッサン用具を持っている学生は持参すること。また、適宜、必要なものは追加購入すること。

*用紙のほか、必要最低限のデッサン用具は学校で準備します。

注意事項

モデルポーズ中は、アトリエへの出入り禁止。入室できなかった場合は、アトリエ外で待機する。

授業中は積極的にモデルを観察し、疑問点は教員に質問すること。

他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。

評価方法

提出課題、取り組み姿勢

人物着彩

担当教員 室井公美子、工藤礼二郎
受講アトリエ 【601】

2025/06/02(月)-06/07(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

本授業では、人体デッサンで習得した形態把握力、構造理解を基礎とし、人物を油彩もしくはアクリル絵具を用いて色彩豊かに表現する技術を習得します。人体の肌の色、髪の毛、衣服の質感、そして光と影が織りなす色彩の調和やコントラストを理解し、モデルを通して生命感あふれる人物表現を目指します。また、色彩理論や画材の特性を学び、多様な表現技法を探求することで、個々の表現力を高めることを目的としています。本授業で培われる観察力、描写力、色彩感覚は、絵画制作のみならず、イラストレーション、キャラクターデザインなど、様々な分野での応用が可能となります。

授業スケジュール／計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	6月2日	月	○	オリエンテーション・制作	○	制作	コスチューム
2	6月3日	火	○	制作	○	制作	
3	6月4日	水		—	文章技法論	○	制作
4	6月5日	木		英語(選択授業)・日本語B		制作	
5	6月6日	金		—	日本美術史A	○	制作
6	6月7日	土	○	講評		—	

学習目標

本授業を通して、油彩またはアクリル絵具による人物表現の基礎を習得します。具体的には、人体の質感や光と影を色彩的確に捉え、色彩理論に基づいた豊かな画面構成力を養います。最終的には、モデルの個性や内面性まで表現した完成度の高い作品を、自らの意図に沿って主体的に制作できる力を身につけることを目指します。

予習・準備物

人体の構造について調べておく。
鉛筆、消しゴム、練りゴムなど。

*着彩セット(油彩もしくはアクリル)を持っている学生は、持参すること。

*キャンバスのほか、必要最低限の着彩用具は学校で準備します。

注意事項

モデルポーズ中は、アトリエへの出入り禁止。入室できなかった場合は、アトリエ外で待機する。
授業中は積極的にモデルを観察し、疑問点は教員に質問すること。
他の学生の作品も参考にし、多様な表現方法を学ぶこと。
安全に配慮し、換気を十分に行い、絵具や溶剤の取り扱いに注意すること。

評価方法

提出課題、取り組み姿勢

1年ファインアート科

イラストレーション基礎 (FA)

担当教員 須田浩介

受講アトリエ [702]

2025/05/13(火)-2025/5/24(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

与えられたテーマに対してイラストを制作する上で個々の持つ個性を活かしながらより魅力的な作品表現となる様にテーマに対しての柔軟な捉え方や作品の見せ方コンセプトを自分の表現や世界観に昇華していく為の授業です。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	5月13日	火		制作		○	オリエンテーション / 課題制作	
2	5月14日	水		— /文章技法論			制作	
3	5月15日	木		英語 (選択授業) ・日本語B			制作	
4	5月16日	金		— /日本美術史A		○	制作	
5	5月17日	土		制作			—	
	5月18日	日						
6	5月19日	月	○	制作			制作	
7	5月20日	火		制作		○	制作	
8	5月21日	水		— /文章技法論			制作	
9	5月22日	木		英語 (選択授業) ・日本語B			制作	
10	5月23日	金		— /日本美術史A		○	制作	
11	5月24日	土	○	講評			—	

学習目標

イラストレーションの基礎課程として、1年次前期にしっかりと基礎力を身に付けます。デッサンや様々な技法に触れ表現する上のしっかりと骨組みとなる授業と、作品表現するうえで重要なアイディアの柔軟さや閃きユーモアや瞬発力の部分を伸ばし拡張するための課題制作を行います。

予習・準備物

基本的な筆記用具、鉛筆、消しゴム等 その他は課題によって指示をする

注意事項

授業時間内でテーマを与えて都度制作をする授業になるので、授業時間内での制作と完成をさせること

評価方法

課題提出と授業態度での評価

1年 ファインアート科

デッサン基礎

担当教員 伊藤泰雅、工藤礼二郎

受講アトリエ 【702、701】

2025/4/9(水)- 4/12(土)

09:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

デッサンの考え方に対する講義と鉛筆による静物デッサンを2枚制作する。

1枚ごとに講評を行う。

授業スケジュール/計画

		指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月9日	水	—	文章技法論	○	オリエンテーション / 課題制作	指導: 伊藤、工藤
2	4月10日	木		英語(選択授業)・日本語B	○	課題制作	指導: 伊藤、工藤
3	4月11日	金	—	日本美術史A	○	課題制作	指導: 伊藤、工藤
4	4月12日	土	○	課題制作		—	指導: 工藤

学習目標

デッサンは「描く」ことから成り立つ絵画、版画、イラストレーションすべての表現媒体の根幹をなすものである。この授業では描くための技術力の向上と同時にデッサンに対する考え方を理解する。

予習・準備物

鉛筆、練りゴムなどのデッサン用具を持っている者は持参すること。予習は特になし。

注意事項

評価方法

1年 ファインアート科

グリザイユ

担当教員 工藤礼二郎

受講アトリエ【702】

2025/04/14(月)-2025/04/19(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

モノクロームの油彩画（グリザイユ）を伝統的な技法に基づいて制作する。

モチーフは人物写真を使用する。

授業スケジュール/計画

			指導	1限	2限	指導	3限・4限	備考
1	4月14日	月	○	オリエンテーション		○	制作	
2	4月15日	火	○	デッサン基礎 講評		○	制作	※AM 講評(伊藤、工藤)
3	4月16日	水		—	文章技法論	○	制作	
4	4月17日	木		英語(選択授業)・日本語B		○	制作	※指導:樋口
5	4月18日	金		—	日本美術史A	○	制作	
6	4月19日	土	○	講評			—	

学習目標

油彩画の成り立ちを知り、写実的表現の基本を理解、習得する。

油彩画ひいては絵画の物理的構造や組成を理解することは再現的技術力の向上につながるとともに
今後の自己表現を紐解く礎となる。

予習・準備物

注意事項

評価方法